



宝慶記／紙本墨書／縦 25.2×横 16.8 cm／江戸時代

『宝慶記』は道元禅師が在宋中、師である如浄に拝問した記録である。その時期は宝慶元年（1225）5月1日から同3年の7月頃までにわたり、その内容は40項目以上にわたる。本書から若き道元禅師の真剣な求道の在り方を知ることができる。

道元禅師示寂後、懐奘（1198～1280）が禅師の遺書を整理中に同書を発見し、筆写したものは懐奘筆写本として現存する。本書は、宝慶寺に伝来した江戸時代の書写本である。